

II 特別シリーズ II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第189回

名古屋大学の活動報告



入山茂美 (名古屋大学医学部看護学専攻教授)

フィリピン人看護学生のための 医療安全向上プログラムを実施

さくらサイエンスプラン事業により、今年3月4日～11日の日程で、フィリピン大学看護学部の学生4名と教員1名を招へいた。本プログラムは、フィリピンの看護学生に、大学病院や介護老人保健施設の見学を通して日本の高度医療を支える病院と高齢者施設における医療安全システムを理解していただくことを目的とした。

● 送出し機関の紹介

フィリピン大学は1908年に設立され、フィリピン唯一の国立高等教育機関である。看護学部は1948年に設立され、毎年70名の入学定員に対し、1万5000名以上の志願者があり、世界屈指の超難関看護師養成校である。看護学部設立以来、看護師国家試験の合格率は100%と優秀な卒業生を輩出している。2004年～現在まで、WHOコラボレーションセンターとして、「看護の開発」においてリーダー的な役割を担っている。

● プログラム内容と招へい学生

来日2日目の午前中は、医学系研究科保健学統括専攻長の寶珠山教授を表敬訪問後、竹原准教授の医療安全の講義を受講した。午後からは、名古屋大学減災館と博物館を見学した。3日目と5日目は、国際医療機能評価「JCI認証」を取得した名古屋大学医学部附属病院を見学し、災害対策、個人認証システム、薬剤リスク管理、感染症対策、ラビッド・レスポンス・システムについて学習を行った。学生は点滴を準備する時の患者の個人認証について、看護師からの説明を真剣に聞いていた。黄色の注射器は点滴のルートに接続できない形状となっており、経管栄養のチューブにしか接続できないことを知った学生は、医療事故が起きないように科学技術でカ

プログラム	
1日目	中部国際空港到着後オリエンテーション
2日目	保健学統括専攻長への表敬訪問、医療安全の講義 名古屋大学減災館と博物館見学、歓迎会
3日目	名古屋大学医学部附属病院見学 (災害対策、個人認証システム、薬剤リスク管理)
4日目	介護老人保健施設「太陽」の見学 (医療福祉器具の使用手法、転倒転落対策)
5日目	名古屋大学医学部附属病院見学 (感染対策、Rapid Response System)
6日目	医療安全対策の発表会 看護学専攻の看護学生や大学院生、教員との交流
7日目	名古屋市科学館の見学
8日目	中部国際空港から出発



保健学専攻統括長の寶珠山教授(左から3人目)を表敬訪問した。歩行補助器具の説明を受けながら、実際に器具を取扱う体験もした。6日目はフィリピン大学の看護学が病院や介護施設で体験した内容に基づき、医療安全について

バーしていることに大変驚いていた。また、使い捨てガウンとアイガードによる感染予防対策に関心をもち、実際に試着をした。

4日目は、介護老人保健施設「太陽」において、医療福祉器具の安全な取扱方法を学習した。学生は、転倒予防のための医療福祉器具の使用手法や注意点について看護師に質問をしてい

本学の看護学生や看護教員と討論をした。7日目は、名古屋市科学館を見学し、味噌カツを楽しんだ。

●プログラムの成果

プログラムの成果としては、フィリピン大学の看護学生から、日本の大学病院や介護老人保健施設における医療安全システムを理解し、自国の医療安全対策へと繋がる言葉を書くことができたことである。大学病院ではインシデントレポートをデータとして集約化し、その分析結果を臨床現場にフィードバックすることにより、医療安全対策に活かしている。そのことを知った学生全員が、自国ではインシデントは個人の問題として扱われ、個人への処罰もあることから、報告を避ける傾向があること話し、インシデントレポートを医療安全対策に活かしているシステムを絶賛した。学生がインシデントレポートは医療安全対策で重要な役割を果たすことに気づき、医療安全の本質を理解していただいたことは大きな収穫であった。

〈フィリピン大学看護学生の感想の一部〉

○大学病院では組織的に医療安全が管理され、素晴らしいと思った。

○日本では様々な技術を駆使し、患者や利用者の生活の質を高めており、フィリピンとの違いを感じた。今度は学生とではなく、フィリピンの医療安全を高める研究者として来日したい。

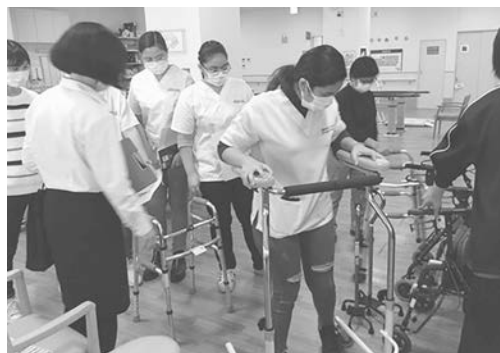
○介護老人保健施設では、医療安全のためにスタッフが協働し、利用者に最高のケアを提供していた。ここで私は余生を送りたいと思った。

○日本で得た医療安全の学びをフィリピン大学だけでなく、フィリピンの国にとっても有益となるように、私は活かしたい。

受入れ機関への影響としては、▽本学の看護学生もフィリピン大学の看護学生と共に大学病院の見学を行い、国際的な基準における医療安全について学習をさらに深めることができたこと、▽フィリピン大学の学生が積極的な態度で質問や意見を述べたことにより、見学先の病院のスタッフの意識が変化し、フィリピンの病院を見学したいというスタッフもおり、病院スタッフがフィリピンの医療について関心を持ってたこと、▽フィリピン大学の看護学生の医療安全に関するプレゼンを聴講した本学の学生が国際的な視野をもち、海外で学ぶことに関心を持つことにも繋がったこと、▽本学の学生が英語による医療安全に関する討議を経験し、医療英語の学習意欲に繋がったこと、などが挙げられる。



看護師から点滴準備時の患者の個人認証について説明を受ける



歩行補助器具を体験、安全な使用方法を学ぶ



集中治療室で使い捨てフェイスガードとマスクに付くアイガンを試着する



プログラム修了式後に記念撮影

●将来の展望

本プログラムを通して、フィリピン大学と本学の看護学生と看護教員は、医療安全に関する情報を共有することができた。今年度は、さらにこの経験を活かし、「社会的弱者である子どもや高齢者の命を守るための医療安全プログラム」を実施していく予定である。今後はさらに、医療安全に関する共同研究に繋げていくことを期待したい。